

研究協力をお願い

この度、当院において下記の内容にて観察研究を行いますのでご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

大阪医科薬科大学病院 / 感染対策室

研究課題名：抗菌薬適正使用ならびに手指衛生と耐性菌発生の関連性に関する検討

研究の意義：私立医科大学病院感染対策推進会議の50施設以上の大学病院で、抗菌薬使用状況ならびに手指消毒剤使用量と薬剤耐性菌の検出状況との関連性について検討し、我が国における感染対策に生かしていきます。

研究の目的：感染対策が薬剤耐性菌検出率と関連しているか否かを検討します。

研究の方法：診療録・臨床データから、耐性菌発生状況、抗菌薬使用状況を抽出し集計します。また各病院での手指衛生剤消費量を集計します。これらを私立医科大学病院感染対策推進会議事務局（東京慈恵会医科大学附属病院）に送付し集計、解析します。

研究の対象：大阪医科薬科大学病院を2017年1月1日～2023年12月31日までに受診した全患者

研究期間：2016年5月2日～2024年3月31日

既存情報の利用目的等：ご自身の情報を研究に使用させて頂くことに対して同意頂けない場合は、下記の申し出先までご連絡ください。データを電子カルテから抜き出す以前であれば、当該データを集計から削除いたします。

個人情報の内容とその利用目的、開示等の求めに応じる手続き：

この研究に関わる患者さんの個人情報は連結匿名化を行い、保護されます。本学は、臨床研究を含む自らの研究成果について積極的に地域社会へ還元することで、社会から求められる研究拠点を目指しております。一方で、研究に関連して研究者が企業から経済的利益を得ている場合には、研究の成果が歪められる、または歪められているとの疑念を抱かれる可能性が出てきます。このような利益相反の状態を適切に管理し、研究の透明性、信頼性および専門性を確保、または確保していることを社会に適切に説明するため、本学では、利益相反に対する基本的な考え方を「大阪医科薬科大学の研究に関する利益相反ポリシー」として定め、研究の実施やその情報の普及・提供が適正になされているかどうかを客観的に判断し評価する仕組みとして研究に係る利益相反マネジメントを導入しております。当該マネジメントの結果、この研究に関して開示する重要な事実がない旨をお伝えします。この研究は、私立医科大学感染対策協議会運営費によって行われ、研究により、当院、他機関、当職員、および患者さんが金銭的利益を得ることはありません。この研究に関する研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧することができますので下記の申し出までお問い合わせください。

・申し出先 大阪医科薬科大学病院 感染対策室 浮村 聡

072-683-1221(代表) 内線 2780 午前9時～午後5時 / 休診日を除く